

臨床研究倫理審査委員会（治験） 議事要旨

【1部】

開催日時	令和5年10月25日（水）18:17～18:39
開催場所	茨城県立中央病院 研修棟 A
出席委員名	清嶋護之、鈴木保之、小林弘明、武安法之、狩野俊幸、荒木眞裕、田村智宏、菅谷明德、渡辺敦史、羽生慶一、鈴木美加、山下ゆうか、外塚恵理子、多川英久雄、村上りつ子
課題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>継続試験 MSD 株式会社の依頼による</p> <p>議題① 「胃腺癌及び食道胃接合部腺癌患者を対象とした MK-3475 の第 III 相試験」 国内及び海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。また治験に関する変更について審議した。</p> <p>審議結果： 承認</p> <p>議題② MSD 株式会社の依頼による 「胃癌を対象とした MK-3475 の第 III 相試験」 国内及び海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。また治験に関する変更について審議した。</p> <p>審議結果： 承認</p> <p>議題③ MSD 株式会社の依頼による 「胃癌（HER2 陰性）を対象とした MK-3475 の第 III 相試験」 国内及び海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。また治験継続の可否および治験に関する変更について審議した。</p> <p>審議結果： 承認</p> <p>議題④ MSD 株式会社の依頼による 「胃癌患者を対象とした MK-3475 と MK-7902（E7080）の第 III 相試験」 国内及び海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。また治験に関する変更について審議した。</p> <p>審議結果： 承認</p> <p>議題⑤ MSD 株式会社の依頼による 「食道癌患者を対象とした MK-3475（ペムブロリズマブ）と MK-7902（E7080）</p>

レンバチニブ) の第 III 相試験」

国内及び海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。また治験に関する変更について審議した。

審議結果： 承認

議題⑥

ブリistol・マイヤーズ スクイブ株式会社の依頼による

「治療歴のある転移性結腸・直腸癌患者を対象とした BMS-986213 の非盲検、ランダム化、第 III 相試験」

院内で発生した重篤な有害事象及び海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。また治験に関する変更について審議した。

審議結果： 承認

議題⑦

グラクソ・スミスクライン株式会社の依頼による

「未治療の dMMR/MSI-H を有する切除可能な結腸癌患者を対象とした dostarlimab の第 III 相試験」

国内で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。

審議結果： 承認

議題⑧

日本イーライリリー株式会社の依頼による

「クローン病患者を対象とした LY3074828 の第 III 相試験-②」

国内及び海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。

審議結果： 承認

議題⑨

ブリistol・マイヤーズ スクイブ株式会社の依頼による

「Elotuzumab の前試験に参加した被験者に対する継続投与試験」

海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。

審議結果： 承認

議題⑩

グラクソ・スミスクライン社の依頼による

「慢性副鼻腔炎患者を対象とした GSK3511294 の第 III 相試験」

国内で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当

性について審議した。また治験に関する変更について審議した。

審議結果： 承認

議題⑪ キッセイ薬品工業株式会社の依頼による
「KLH-2109 の過多月経を有する子宮筋腫患者を対象とした第 III 相検証試験」
国内で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。

審議結果： 承認

議題⑫ アッヴィ合同会社の依頼による
「Telisotuzumab Vedotin (ABBV-399) の第 III 相試験」
重篤な副作用の取り下げ報告について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。

審議結果： 承認

議題⑬ バイエル薬品株式会社の依頼による
「脳卒中リスクのある 18 歳以上の心房細動の患者を対象に、脳卒中又は全身性塞栓症の発症抑制に関する、経口 FXIa 阻害薬 asundexian (BAY2433334) の有効性及び安全性をアピキサバンと比較する多施設共同、無作為化、実薬対照、二重盲検、ダブルダミー、二群間並行群間比較、第 III 相国際共同試験」
国内及び海外で発生した重篤な副作用について引き続き治験を実施することの妥当性について審議した。

審議結果： 承認